

委員会だより

<5月10日(日) 13名出席>

【1】財務報告：98年4月度決算報告(甲斐さん)
特記事項：◆一般会計の4月単月収支は-47,616。
◆ご復活パーティ費実績：¥79,496

【2】議題：

- (1) 献堂25周年の信徒名簿編纂進捗状況報告(小野):
◆5/10現在回収出来た調査票81枚の内容を盛込んだ「内容確認/修正用データ」を配布。
◆壮年会長、婦人会長に未回収分の調査協力をお願いした。
- (2) 教会委員会の連絡網(花坂さん): 一覧表配布
- (3) 山崎神父様の日本鉄道カトリックの会ご出張(5/22, 23, 24, 25)留守当番表を別途掲示するので、協力願いたい。
◆5/24の「主の昇天」ミサを鶴飼神父様をお願いした。
- (4) 山崎神父様の霊名の祝日(6/29)のお祝:
◆例年通り、霊的花束+お祝金を差し上げる。婦人会より図書券。霊的花束は5/31~6/21に集める。
- (5) 第9回卓球大会は8/30に開催する。
◆実行委員は、宮崎さんをお願いする。また場所とりは、小山(利)さんをお願いする。
- (6) バザーの件:
◆開催日は10/25に決定。
◆バザー委員は、福島さん井上さんを中心に、壮年会、婦人会より2名ずつ選出する。
◆バザー券は昨年同様、発行する(昨年度:200円券の5枚綴りを200冊発行した)。抽選方法は、再検討。
◆バザー内容は、選出委員に一任する。(イベントも広く募集する。)
- (7) 報告事項、他:
◆3月21日の要理学校研修会に石井さん、内藤さん出席。テーマは「堅信の指導」。他教会の、若手の活躍状況報告が印象的だった。中和田も子育て中の若いお母さんを中心とした活動企画が欲しい……石井さん提案(二俣川教会では、子ども70~80人を若いお母さん5、6名で指導)
- ◆4月26日の「聖歌の集い」(石井さん報告):
中和田より11名参加した。総参加者は120名位であり、神父様のお話しも良かった。ビデオを注文したので、皆さんに御覧頂きたい。
- ◆5月30日に大船教会献堂式が挙行されるが、阿部さん、位田さんが出席予定。
- ◆6月21日藤沢教会にて第5地区の典礼研修を開催。指導は、ご受難会の国井神父様で、テーマは「ミサと信者の霊性について」
- ◆5月13日に、婦人会の遠足を挙行(宮が瀬方面)

壮年会だより

<5月17日(日) 6名出席>

1. 財務報告(甲斐さん)
特記事項なし
2. 信徒名簿編集委員報告(小野さん)

調査票の未提出者につき婦人会有志で調査

3. 神父様鉄道カトリックの会出席出張のための日直のお願い5月22、23、24、25日
4. 5月24日のミサ
鶴飼神父様
5. 卓球大会
8月30日予定
壮年会宮崎さんをお願いする
6. バザー開催について
10月25日を予定
壮年会からの実行委員宮崎、上野さん

婦人会だより

<5月17日(日) 30名出席>

- 委員会報告
- お知らせ
◆8月30日(日)に行われる卓球大会では、婦人会からは中谷さん、宮崎さんに準備委員をお願いしました。
◆10月25日(日)のバザーにむけて婦人会から会長、副会長がバザー準備委員に就任いたします。
◆石井さんより聖歌のつどいの報告がありました。
◆クスコのチャリティーコンサートが5月31日と6月17日に行われます。詳しくは石井さん迄お問い合わせ下さい。
◆要理学校研修の報告がありました。
◆小野さんよりペルーの子供たちの為のチャリティーコンサートのお礼の報告がありました。
◆針金ハンガーで作るモップ講習会は石川さんのご好意で月曜日でしたら教えていただけるそうです。希望者は石川さんまでお問い合わせ下さい。
- 遠足の会計報告 参加者35名(一人4,100円集金)

●参加費	143,500 @¥4,100×35名
支出内訳	
バス代	73,500
昼食代	55,125
乗務員経費	1,575
旅行障害保険	7,000 @¥200×35名
旅行取扱手数料	7,000 @¥200×35名
小計	144,200
差額	▲700 @¥20×35名
●婦人会予算	20,000
支出内訳	
下見交通費	2,000
厚木教会献金	5,000
運転手へ心付け	2,000
お菓子代	3,002
神父様お土産	530
上記差額分	700 @¥20×35名
小計	13,232
残金	6,768

以上の通り報告いたします。

次回例会は6月21日(日)、次回当番はC地区です。



今月の予定

委員会	6月 7日
三位一体の主日	6月 7日
キリストの聖体	6月 14日
神父様霊名祝日	6月 29日
サロン	6月 14,28日



第237回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
1998年6月7日



思いワズラウの事 付三

山崎 正俊



その令婦人の偉大さは、悪妻の標本としてたたえられるところ。そのために一般から親しまれている。——ぶよぶよに太った大オンナと夫とのかかわり。ヨツンパイでお尻を革ムチでたたかれながら、ハイハイドウドウのお馬遊びのお相手をさせられ、ヒゲムジャラの、瘦せ男との漫画的合成画像として、一般に流布されている。(ああ、シンドなどと、こった肩などをほぐす。)

——夫はいばりちらして、わがまま勝手な振る舞いをつづけ、それにひたすら、仕え守り支えるのが、妻のサダメ。そのような世の長年の仕来りたるのなかにいること。夫を主人として尊び従い、すべては「私の愚かさ足りなさによるのです。」と、自分は悪者であり続け、わざわざだけは自分に引き受け(胸の内では、その痛みと苦しみに耐えての、憂さ晴らしは弱い者に向けての当たりちらし)。これを自分のような者にできる理想的なありかたへのひとつのタイプとするような見せかけに嫌気がさして、そこから逃げ出したいがどうにもならぬ。——

ビョウブは、真っ直ぐでは立てない。正直者は馬鹿を見る。怖いことばかり。——仏教も神(カン)ながらの道も、儒教もいろいろな習慣も、みな、ロクでもない。「他人には迷惑をかけない」という教えから、「思いやり深さ」「キリストの在り方」へと曲がってゆくことになる。それは損な役回りのようでも、不完全ながらも、まことに生きる道はその他には、思いつけない。

若い日に、このことを身にしみて感じさせられることになった。軍隊においてだ。私の理想は、「なるようにしかならぬ」となり、「よいカゲンに、バカな者に徹する」にかたまるとは、不思議な成り行きかな。

軍の指導者によれば、戦闘は勝ったり負けたりということだけではない。(ついには殺したり殺されたり、前に進んだり尻に帆掛けて逃げたり、逃げ切れずにひどい殺されかたをされたりがあるから、同じ所の行き帰りの度に、戦友の死体は持ち帰り、敵の死体には同じ仕返し(お互いさま)。次第に残酷さが激しくなる(これは特に異常なことではない)。さきに行けるほうが、結果的には勝つことになる。ここでは常に平然とした無情酷薄な集団であることが要求される。敵地では敵のほうが数が多く、戦闘家業集団を対面にする場合があるので、なおさらだ。

——だから隣の分隊のような戦地帰りのツワモノ(古兵)が必要ということになる。何かで気に入らぬことをすれば、戦友同志全員での対抗殴り合い演習ぐらひは、水筒で頭をコブだらけにしても、夕食後の兵舎前に並んでやらされるのは、日常行事ではないだろうが、必要と信じられていた。

——これで、戦地に着いて、まだ何もしないうちに、歴戦の兵隊の残酷さにまみれていて、それに劣らないほどの者になるのにこんなことではすまんなどと気合いを入れられて、そのきびしさは平常の場では想像もできないほどの荒々しさに染まって、「殺人者の群」そのものに近い。仲間内での穏やかさは別にしても、その度を越えていた。

——反省はしない。先輩たちの姿にならっての反戦的行動。現時代の児たちは、そのまま、充分に、先鋭的です。



孫と二人で

吉田 ちかゑ

広島は戦前半住んだ思い出のある街。長崎はカトリックの古里。一度訪ねたいと願って幾年、高齢の一人旅は心許ないので、孫の洋一の成長を待ちました。其の機は熟し彼の高一、今年の春休みに、五泊六日の旅をしました。

3/30 新横浜駅の混雑の中で「十四号車だね。其れなら此方の階段！」荷物を担いでサッサと行動する様を見て、方向音痴の私は大変頼もしく思い、旅の幸先よさを感じました。

3/31 広島を観光バスで。初めて見る原爆ドーム、平和公園、資料館では戦禍の余りの悲惨さに戦慄を覚え、只亡き方々の冥福を祈りました。復興の象徴の様な素晴らしい広島美術館では、西欧と日本の近代の名画を鑑賞し、名勝縮景園では日本庭園の美を満喫。宮島では、朱塗りの社殿と回廊が山と海に映えて美しく、大鳥居を背景に孫をパチリ。



4/1 憧れの長崎。駅舎は思ったより小さく、稍鄙びた感じ。早速駅前の小高い岡に、日本二十六聖人殉教の地を訪ね、少年を交えた痛ましくも雄々しい二十六柱の御霊に合掌しました。

記念館で資料を拝見した後、私が読者である事で二人の霊名のおメダイとゴエイを記念に頂き大変恐縮しました。コルベ記念館で、神父様が使用された小さな部屋、粗末な椅子机、初期の印刷機等が印象的でした。夕方六時、宿で初めて聞く長崎の鐘は、私の胸に沁み入りました。この日の夕食は長崎ちゃんぽん。

4/2 観光バスで平和公園へ。永しえに平和を願って大空に向けて厳肅に鎮座します。祈念像を仰ぎ見て、言い知れぬ感慨を覚えました。原爆資料館で破壊された石像等、其の威力は凄まじく焼け爛れたご信者の遺品を拝見して胸が凍る思いでした。



大浦天主堂では真正面にマリア様がお迎え下され、ステンドグラスが美しく昔の儘の佇まいで、沢山のご信者の方が祈られたであろう年代を経た椅子に私も跪いて、一時平安の気持ちに満たされました。グラバー園を始め異国情緒溢れる邸宅、建築物、三浦環の像等、又園庭から見下ろす海を眺め、孫が尊敬する坂本龍馬が、其の同士と共に活躍した幕末のロマンを語り合いました。十六番館唐人館、そして孔子廟の博物館は見応えがありました。浦上天主堂は大変壮麗な建物で、ご信者の方々もさぞかしご満悦の事でしょう。亡くなられたみ霊に心からのお祈りを捧げました。如己堂は其の小さなのに驚き、此处で病軀を推して沢山の書物を著された永井隆博士の信念と精神力には驚嘆の外はありません。記念館で拝見した緑夫人の焼け残ったロザリオが忘れられません。



4/3 バスに二時間半揺られて雲仙公園へ。又バスにて仁田峠、ロープウェイで展望台へ。視界が開けて眺めが美しく昔国史で、キリシタン原城の攻防に、少女の血を沸かした島原の乱の戦跡は何処に？間近に見る火の山普賢岳は鳴りを鎮めて、焼け跡の黒と茶の岩肌を見せて不気味な感じ。

4/4 朝長崎駅を立つ時孫が淋しそうに、「もうこれでお別れだね」と申します。サラバ長崎！再び訪う日の有りや無しや。夕方無事帰宅。

天候にも恵まれ、事故から守って下さった神様のお恵みを心から感謝申し上げます。「今度の旅行はとても楽しく勉強に成った」と孫は申し、何時迄も彼の記憶に残るでしょう。駆け足ではあったが訪ねて良かったと沁々思う。サポートして呉れた洋一君有り難う。お陰で大変満足な旅でした。

ミサ当番表 (98年6、7月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
6/7	三位一体の主日	富田	美底	7/3	年間第十四主日	宮崎	美底
6/14	キリストの聖体	青年会	森田	7/10	年間第十五主日	青年会	森田
6/21	年間第十二主日	婦人会C地区	大宮	7/17	年間第十六主日	婦人会D地区	大宮
6/28	年間第十三主日	小野寺	岩淵	7/24	年間第十七主日	岩淵	岩淵

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: TEL 802-6258)

ラルシュ・カナの家

阿部 映子

ラルシュとは知的ハンディを持った人達が施設の中で、価値ある人として生活していくようにとフランスの寒村トロリーで始められたコミュニティーです。日本では、ただ一つ静岡市郊外にある“カナの家”が、国際ラルシュ連盟に認められています。

ここカナの家では、知的ハンディのある人を中心に、家庭を支える健常者と共に、3つの家庭、2つの仕事場で成り立っています。(知的ハンディのある一人一人に対して、健常者一人付くのが原則です。)何よりも家庭的に人間らしく生活するには、自活しなければなりません。そのため、仕事は大変重要です。「出来ることは出来るだけ自分たちで」と考え作られているものが、“石鹸みそ”の製造、米、やさい等です。

昨年、私がスタッフとして参加しております横浜婦人同志会信徒養成チームが大聖年を迎える準備として“差別について自分の心の中を覗いてみよう”という企画を立てました。その中の一つとしてラルシュカナの家の生活体験を致しました。中和田婦人会からも4名の参加がありました。約20名位の人達に暖かく迎えられ、短い時間でしたが、一緒に昼食をいただき歓談しました。その後、この責任者である佐藤さんにお話を伺いました。

ここでは障害があるなしに関わらず、人間としての成長が求められ、仲間のすばらしさに気づき、お互いの心に触れ合うことが出来るよう、共に生活するのが理想です。知的ハンディを持った人の淋しさを感じとり、又、優しさに気づき、それを暖かく受けとめてくれる仲間がいることの大切さを知る。そんな分かち合いの生活をしています。愛することは、まず何かをしてあげるのではなく、“そのひとの素晴らしさに気づくことだ”と教えられます。その為には“祈り”が必要です。先日の鶴飼神父様のお説教にもありましたが、「相手を変えるのではなく、自分が変わっていかなければならない」というお話通り、障害のある人は気の毒だとか、助けてあげなければとかいう、自分がいつも優位に立っている考えに気づかされた一日でした。

しかし、生活するためには、やはり経済的支援が必要です。自分達の労働で作り出されたものが売れなくては生活出来ません。それで少しでも仲間として参加出来ればと思い無添加、無香料のボディソープを買い求め、婦人会に協力していただきました。大変好評でしたので、これからも定期的に注文したいと思います。カナの家からもお礼状が届きました。環境に優しい粉石鹸の利用を一番望んでおられるようです。皆様、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

ご報告 婦人会 春の遠足



私達婦人会総勢35名は、5月13日、8時30分、元気に立場を出発しました。昨日来の激しい雨もすっかりずり、まぶしいばかりの好天に恵まれました。会長の名ガイドや楽しいおしゃべり、聖歌の合唱に時間のたつのも忘れて、スノーピーバスは、宮ヶ瀬ダムに到着しました。津久井、愛川両町と清川村にまたがる同ダムは首都圏最大級の水がめと期待され、その規模は、群馬県の矢木沢ダムに次ぎ、箱根 芦ノ湖に匹敵します。光り輝く新緑の中にあつて、満面の水をたたえるダムの景色にひととき魅了されました。おいしいお弁当をいただいた後、ついお土産をかうのに夢中になって集合時間に遅れるというハプニングもありました。

青い湖水と別れを告げ、バスは日向薬師へ。ハーハーと息を切らせて階段を登りつめると杉木立の奥まった所に茅葺きの本堂がひっそりと立っていました。薬師如来や梵鐘などの重要文化財を見て、帰りはなだらかな山道をおしゃべりしながらハイキング。次は陶器のノリタケスクエアでショッピング。ここではそれぞれ思い思いに楽しい時間を過ごしました。そしてこの後厚木教会への聖体訪問。お御堂でゆっくりとお祈りし、厚木教会の方が用意して下さった冷たいムギ茶とお菓子をいただきながら、ケン神父様と短い歓談のひとときを持ちました。それぞれに抱える問題を話し合い、聞くうちに、何処も大変なんだという思いをあらたにし、帰路につきました。大変強行軍の旅でしたが、事故もなく、怪我もなく、みんな元気に過ごせましたことを神様に深く感謝しつつ楽しい一日が終わりました。



最後に、山崎神父様にご報告がてら、大好きな“きなこ”のお土産をお届けしました。(映子)